

TEST 02

主要メーカー
最新アイロン
6製品テスト

Iron

スチーム力のティファールからは、コードレスにもなる2WAYタイプが登場した。使い勝手を強調する国産ブランド製品など合計6機種を徹底比較する



スチーム力の「コードタイプ」と使いやすい「コードレス」。本当に使えるアイロンはどれだ！

誰も教えてくれなかったプロの目で見たアイロン選びの4つの極意

アイロンは一度買ったならなかなか買い換えられない商品にもかかわらず、機種選びの指針があまり知られていない。販売するメーカーもそれほど多くはなく、A/V機器やキッチン家電のように、新たな機能が追加されていきつぎと新しいモデルが登場することも多い。事実、今回リストアップしたメーカー以外にも、アイロンを発売している

メーカーはあるが、2年以上前製のものが多くない。あまり積極的な製品開発がなされていない。そこで今回はティファール、東芝、パナソニックの主要メーカーのコードタイプとコードレスモデルをセレクトして、比較検証してみた。アイロンのテストと選び方の指針は、ヤマサワプレスさんの山澤亮治さんにお話を聞いた。まずアイロン選びの重要なポイントも4つ浮かんだ。それは、しわをのばすのに重要な役割を果たす「スチーム」のかけやすさを決める「大きさ」



検証したのはこの人
アイロンの達人 山澤 亮治さん

ヤマサワプレス代表、アパレルメーカーの工場から上がってきた製品を、アパレルなどの納品前にプレスをかけて仕上げるアイロンのプロ。TVや雑誌、講演などで情報を発信している。

アイロン選びのチェックは4点！

- 1 スチーム**
しわを伸ばすにはスチームの力をもっと重要。こまかい水蒸気が繊維に入り込むことでしわが伸ばせる。スチームの量と強さ、細かさなどのスチームの質についても見る。
- 2 大きさ**
コードレスタイプはコンパクトなものが多いが、重要なのはかけ面の大きさ。かけ面が大きい方が、シャツの背中など広い面を少ない移動量でかけられるので、疲れにくい。
- 3 重さ**
しわを伸ばすためには、上からある程度の圧力をかける必要がある。そのためアイロン自体に重さがあるほうが、力を入れなくて済み、アイロンの重さを使って動かせる。
- 4 すべり**
すべりは実際にアイロンをかけたときのかけ心地を決める重要な要素。すべりがよく、すっと動いて、しわがきれいに伸びた仕上がりのいいものももっとも気持ちがいい。

ティファールのスチーム力とコードレスの便利さ

ティファール
2WAYコード
FV7020
実勢価格 1万2800円

●消費電力：1200W ●電源：100V ●ボタンプ
容量：約200ml ●かけ面：特殊セラミック ●湯
かスチーム機能：有（ジェットスチーム） ●本体
寸法：高さ295×幅120×奥行140mm（コード付
時） ●本体質量：1.3kg（コード付時）

総合評価
A

●テスト結果
大きい面のかけやすさ ★★★★★
細かい面のかけやすさ ★★★★★
すべり ★★★★★
スチーム ★★★★★
仕上がりが具合 ★★★★★



ケースに入れた状態と比較すると今時のラインアップ中最大の大きさ



コードタイプ
コードレス

ティファールのウリである強力なスチームと、コード部分が外れてコードレスとしても使える2WAY。今までにない独自のスタイルでかなり便利だ。

コード付きタイプと同じサイズのただでさえ大きいボディに、置き台とケースまでつくので相当に大きくなってしまふ。収納場所には困りそう。



かけ面にはスチーム孔数が64個で、25g/分の連続スチームと90g/分のジェットスチームを備えている



スイッチ類はシンプルにアイロンの全機能を1つのボタンで操作

総合評価
B

スチーム力No1の汚れに強いクリーン加工

ティファール
アルティメット
オートクリーン
実勢価格 1万6800円

●消費電力：1400W ●電源：100V ●ボタンプ
容量：約250ml ●かけ面：オートクリーン ●湯
かスチーム機能：有（ハイパーショット） ●本体
寸法：高さ305×幅155×奥行150mm ●本体質量
1.9kg

●テスト結果
大きい面のかけやすさ ★★★★★
細かい面のかけやすさ ★★★★★
すべり ★★★★★
スチーム ★★★★★
仕上がりが具合 ★★★★★



ハイパーショットとパーチカルスチーム、霧吹きなど無類豊富なスイッチが使いにくい



コードタイプ

最大95g/分の強力なハイパーショットは、繊維の奥までスチームが浸透。かけ面にはパラジウムをコーティングして、汚れが残りやすく手入れが簡単。

スチームが豊富でタッチがわかりにくいってコードレスの収納時になる。



かけ面には70個のスチーム孔があり、強力なスチームを効率的にふきかけられる



素材の安定は持ち手下のダイヤルを回しながら、先鋒部の表示を見ようになっているのでわかりにくい

●仕上げが具合

スチームをたっぷりアイロンをかけた後、きれいにしわがなくなる。力がかかりすぎた場合は、スチームをたっぷりかけ、その仕上げが具合をプロの視点でチェックする

●総合評価

オビの厚みは通常の厚みより厚いというだけで、各チェックポイントの検証結果、評価を高くして、20点を満点とする。5.5点以上で、それ以下を20点としている

Special Topic

コードレスアイロンはただの蓄熱！

コードレスというと、ケータイ電話のように充電式のバッテリーを搭載しているかのイメージを持つが、アイロンはまったく違う。バッテリーを搭載しているのではなく、アイロンの中にあるのは蓄熱用の板。電源からの熱を板にためて、その余熱を利用するのだ。スチームもそこに水をかけたときにおきる水蒸気なので、大量の水をかけると蓄熱板の温度が下がってしまう。だから構造的にコードレスにスチーム力を求めるのは難しい。対策としてはこまめに蓄熱する程度だろう。



アルミの板に蓄熱し、その余熱でアイロンをかける
スタンドは充電ではなく熱をためるもの
スチームは蓄熱された熱を利用してつくられる

テスト方法 / 評価方法

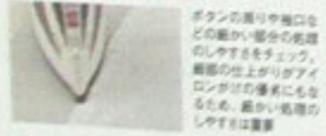


大きい面のかけやすさ



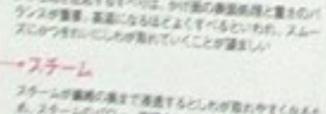
かけ面の大きさと重さがポイントになる。シャツの背中などの広い面積を楽に動かして、しわをのばすのがポイントになる。細かい処理のしやすさは重要

細かい面のかけやすさ



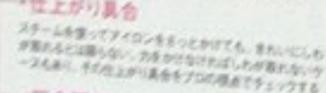
ボタンの振りや袖口などの細かい部分の処理のしやすさをチェック。細かい処理のしやすさは重要

すべり



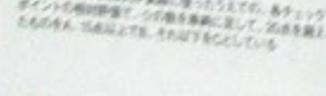
かけ心地を決定するすべりは、かけ面の表面処理と重さのバランスが重要。高圧になるほどよくすべるといわれる。スムーズに動かすために、このポイントが重要

スチーム



スチームが豊富で浸透するほどしわがなくなりやすい。スチームのパワー、持続力、また、細かい部分を楽に動かすためのチェック、コードレスは構造的に不利だが別項で説明

仕上げが具合



スチームをたっぷりアイロンをかけた後、きれいにしわがなくなる。力がかかりすぎた場合は、スチームをたっぷりかけ、その仕上げが具合をプロの視点でチェックする

達人に教わる アイロンのコツ



アイロンがけの基本であるYシャツのかけ方を達人にきいた。まず手順は大きく分けて以下の4つ。ポイントはいちばん目立つところは後にすることだ。Yシャツの場合は、襟元がいちばん目立つのでそこを最後にする。アパレルプレスの世界では、ごく自然の仕上がりをするために、袖などに折り目をつけないそうだ。達人のアイロンがけはアイロンをもたない手でしっかり生地を引っ張り、本体の重みですっと動かしている。このあたりがコツとのことだ。

1 まずは袖口から袖に



袖口のカフス部分を内側からかけたら、つぎは袖の縫い目、そして袖を両側の生地を引っ張りながらしわにならないようにかけていく。折り目をつけないように注意すること

2 大きい背中には二分割



背中のように広い部分は、一気にかけないでおと定に分割してかける。広い面をかけるときにはなるべく重みですすべし、背中にある肩のブリーチなどもここで処理する

3 前身頃はボタンまわり



前身頃はまず大きな広い部分をかけた後、つぎにボタンについている少しをかける。ボタンの周りを丁寧にかけて、最後に一番外側にくるボタンホール部分を上上げていく

4 いちばん目立つ襟元



襟元は目立つ部分なので最後に、後ろの生地をおひたすように、襟の部分を仕上げたい。襟のアイロンがけは、いちばん目立つ部分からかけていく

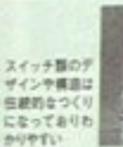
総合評価 C

大きく厚手の生地はいいが 細かい部分がかげにくい

- テスト結果
- 大きい面のかけやすさ ★★★★★
 - 細かい面のかけやすさ ★★★★★
 - すべり ★★★★★
 - スチーム ★★★★★
 - 仕上がり具合 ★★★★★



ステンレスにニッケルコーティングをしたミラマージュをベースを採用。軽いすべりで汚れがつかない



スイッチ部のデザインや構造は伝統的につくりになっておりわかりやすい



通常のスチーム、パワースチームのほか、霧吹き状のスプレー機能も備えている

コードタイプ



パナソニック NI-R80 実勢価格/1万4800円

●消費電力/1400W ●電源/100V ●ホタテク容量/約300ml ●かけ面/新多次ミラマージュベース ●強力スチーム機能:有 (ハイパワースチーム) ●本体寸法/長さ300×幅130×高さ150mm ●本体質量/1.7kg

大型のベース面を採用しており、適度な重さがあるので、シャツなどの大きなものも効率よくアイロンがけできる。スチーム力もかなり強いのがいい。

スチームは強いのだが連続して出ないので、強力スチーム機能多用するのはストレスがかかる。また細かい部分の処理がかなりやりにくい形状だ。

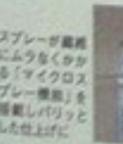
総合評価 C

機能的には多彩だが 仕上がり具合が弱い

- テスト結果
- 大きい面のかけやすさ ★★★★★
 - 細かい面のかけやすさ ★★★★★
 - すべり ★★★★★
 - スチーム ★★★★★
 - 仕上がり具合 ★★★★★



スチーム穴の形状をより広範囲に配置してスチームの威力をアップした



スプレーが霧状にムラなくかかる「マイクロスプレー機能」を搭載しパリッと仕上げに



コンパクトで収納性もいいので、その都度頻りに出し入れして使っても悪にならない



パナソニック NI-CL606 実勢価格/1万4800円

●消費電力/1400W ●電源/100V ●ホタテク容量/約300ml ●かけ面/ディンプルミラージュベース ●強力スチーム機能:有 (ハイパワースチーム) ●本体寸法/長さ210×幅90×高さ120mm ●本体質量/1.0kg

よくいえばコードレスアイロンらしい製品で、コンパクトでオーソドックス。スチームも比較的強く、細かい粒子の霧吹き機能などもあり機能面は充実。

ベース面の小さく重さもあふつうにかけた仕上がり具合が非綿や麻などはしっかりかける必要は悪わりには仕ご弱い

総合評価 A

超硬質素材ボロンで 圧倒的なすべりを実現

- テスト結果
- 大きい面のかけやすさ ★★★★★
 - 細かい面のかけやすさ ★★★★★
 - すべり ★★★★★
 - スチーム ★★★★★
 - 仕上がり具合 ★★★★★



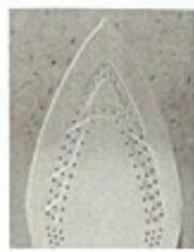
コードは本体に収納できるので、サイズは大きいものの、本体をしまっておくには邪魔にならず便利

コードタイプ



東芝 TA-GX110 実勢価格/1万7800円

●消費電力/1200W ●電源/100V ●ホタテク容量/約260ml ●かけ面/ビップボロンベース ●強力スチーム機能:有 (ハイパワースチーム) ●本体寸法/長さ302×幅130×高さ151mm ●本体質量/1.0kg



101個のスチーム孔で広範囲に噴出する強いスチームと、しっかりとした重さでプレスがかかりやすい



スチームマージョットで10秒間連続ショットできることで、ハンガーにかけたままスチームがけするのにも便利

スチームも強く連続性があり、圧倒的なすべりのよさが気持ちよく、しかも重さだけできれいに伸びる仕上がり。文句なく優れた使いやすさを実現した製品だ。

独特のデザインと底部のコードリールによって、本体はだいぶ大きく感じられてしまう。スイッチ類はコンパクトにまとまっているが、表示が小さく若干使いづらい。

総合評価 C

コンパクトでも強いスチーム 小物用に割り切るなら イチオシ

- テスト結果
- 大きい面のかけやすさ ★★★★★
 - 細かい面のかけやすさ ★★★★★
 - すべり ★★★★★
 - スチーム ★★★★★
 - 仕上がり具合 ★★★★★



ケースにすっきりおさまるコンパクトボディは、出し入れも簡単で使いやすいサイズ

コードレス



東芝 TA-FV51 実勢価格/4800円

●消費電力/1200W ●電源/100V ●ホタテク容量/約80ml ●かけ面/チタンダイヤモンドコート ●強力スチーム機能:有 (蓄積ショット) ●本体寸法/長さ213×幅104×高さ116mm ●本体質量/0.8kg



ディンプル加工と適度な重さによるすべりのよさが異常に印象的だった



スイッチはシンプルにまとまり、スチームボタンによるスチーム力はコードレスながら強く感じる

小型コードレスながら、それなりに強いスチームと、すべりのいいかけやすさは特筆すべき。ハンディで使いやすいため小物衣類用途なら、この製品はイチオシできる。

コードレス特有の水分垂れもある。また仕上がり具合が弱く、シャツをしっかりと仕上げなければならず、疲れてしまう。そのあたりの割り切りは必要。

東芝のコードタイプは 圧倒的な高評価で 最高得点をマーク

テストは達人に指導して鉄板機にかけたままのYシャツを使ってテストしてもらった

まずティファールの2WAYコードタイプ。今までのコードタイプ製品から、コード部分の構造で「コードレス」として使えるというモデル。スチーム力が必要なときはコードタイプで、やりにくい部分はコードレスタイプで使い分けができる。いいと悪いの両面が、ただでさえ大きく、ティファールのモデルが、スタンドとケースでいっそう大きくなった。使い勝手もよく、テスト結果も優れているが、収納場所を減らす。

むしろコードタイプのアルティメットオートクリーンのほうが、余計な機構がない分、コンパクトに見える。ティファール製品はやはりスチーム力があるので、仕上げの具合もきれいだった。

つぎが東芝の製品。実は同社はアイロンには力を入れており、積極的に新製品を投入し続けている。とくに高価格帯のものは、実際にかけてみたときのすべりに定評がある。達人もコードタイプのアイロンがけをした瞬間に驚賞。スチームも強く、持続時間も長い。しかもアイロンの重さだけできれいにのびる。コードの処理も万全だ。一方、低価格帯のコードレスモデル。スチームの水が垂れやすいというコードレスならではの欠点はあ

るものの、スチームの強さやすべりの良さなどは評価。一人暮らしで使いやすいかもしれないとおぼしめた。

最後はパナソニックの製品だが、これはどちらのタイプもあまり高評価が得られなかった。大きい面のかけやすさや、すべりなどは標準的だったものの、コードタイプは「細かい部分のかけやすさ」、コードレスは「スチーム」が非常に低評価であることがわかった。

総合評価を見ると東芝のコードタイプが最高点で、次点がティファールの2WAYコード。どちらもかけやすさやスチーム、仕上がりで評価されている。今回は収納や対象にはしていないが、収納を考慮するとティファールはコードの処理が面倒。コンパクトにおさえる工夫がもしひとつあってほしいと思う。

写真/三浦勇之
テキスト/溝口裕作